婦人と新社會

山田わか主筆

八月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
昭和二年七月二十三日印刷納本

現實と希望

學校騷動と家庭

文明人の生活とは

無藥療術の勃興

全女性に對する誹謗言

昭和二年八月一日 第八十九號 （每月一回一日發行）

東京市 婦人と新社會社 發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現實と希望

現代の特色は破壞です。現代の世界を流れてゐる思想の潮流は過去の人類が建設して置いたものを破壞してしまはうとする傾向を持つてゐます。

たとへば、これを家庭的に云へば、家族員凡ての幸福を基礎とした統一ある家庭を造ろうとすることの代りに、皆、自分々々の思ふ方向に進まうとし、そして、家庭を破壞に導こうとしてゐます。

又　これを國家的に見るならば、國民の凡てが、一致共同して、相互の利益、幸福を計ろうとすることの代りに、階級爭鬪を起したり、他の國體に反對するための團體を造つたりしてゐます。

又これを國際的に見るならば、軍備の整頓に怠りないと云ふ有樣です。各國の軍備を縮少するために、今、ジェネヴアで會議が開かれてありますが、これは、各國が軍備を擴張しようとする計畫であつて國際の平和を計ることから遙かに遠いものです。

こう云ふように凡てが破壞的であり爭鬪的であるにも拘らず、こゝに一つの大きな光りが輝いてゐます。そして、それは共存共榮、卽ち、調和した生活を求めてゐることです。

けれどもこれは現實に對する希望に過ぎない。そして、凡ての有識な人間の努力は此の希望を實現しようとするものです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學校騷動と家庭

學校騷動を頻々として起す教育界の惡傾向は單に教育界のみの問題ではなく國民全般の惡傾向の現れの一ツであり、全國民的問題であると私は考へます。

　最も憂ふべき傾向の一ツなるそれ等の學生の不穩なる行動の原因を師道頽廢に歸する者があり、又は赤化運動に培養されたバチルスだと斷ずる向きもありますが、確かにそう考へられないこともありませんが、併し、それは單なる近因であつて、その遠因の凡ては家庭にあると觀測されます。

　社會進步の發端が教育にあると云ふことは誰でもが認めてゐる事實です。教育によつて、政府、法律、道德、宗教等の理想は維持され、與論、信仰、生活の標準は定められるのですから。けれども、私の云ふ此の教育の意味は學校教育をのみ云ふのではありません。個人を取卷く環境及び新聞雜誌も隨分教育的力を持つてゐるものでありますが、併し、それ等のどの力よりも重大なる力を持つものは家庭です。

　けれども、今日迄の大部分の女子は家庭に對することの深き廣き意義を悟るだけの大きな頭腦を持つてゐませんでした。國家の基礎なる家庭を主宰する主婦として無資格な、家庭內の仕事も子供の始末もうまく出來ないような女が多く從つて、子供に長者を尊敬する柔順な習慣を植へ付けることができずにゐました。

　家庭に於て、本能の動くまゝに放縱な無責任

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

な行動をする習慣のついた少年が學校へ行つて校規を破ると云ふことは餘りに當然な成行きです。家庭が成つてゐないことが今日の教育界の紊亂であると私は考へます。

教育の本當の意義は忘れられ、家庭の教育的價値は無視され、學校萬能が信じられ、しかも學校が單なる個人的成功の具に供されようとし從つて、學校は營業化され、教育は墮落してしまいました。

我が國の教育は形式に於ては可なり完成してゐるけれども、その內容が充實してゐない、云ひかへれば、教育の實績に見るべきものがない。と云ふのは教育の本義が本當に分つてゐないからです。

優良な、且ツ、有効な國民を養成しようとすれば第一母が子供の保健上、相當な醫學を心得てゐなければなりません。料理をするに就ては化學も知らなければならず、家庭用のいろいろの機械が發明される以上は物理學も必要です。教師が師範學校で教へられる位の兒童心理學は知つてゐなければなりません。

その上に、母は、子供卽ち次代のためによりよき社會を準備するに付て他の多くの母達と共同しなければならず、そして、そのためには、出來るだけ委しく社會學を學んでゐなければなりません。且ツ、又、母は文學に付ての知識を一通りは持つてゐて、娘、むすこの讀物を選擇してやらなければなりません。子供達が靑年期に達しても、なほ、母が讀書に付ての相談相手となることができるならば、それは非常に幸ひです。

家庭の仕事は一般に過重な奴隷の仕事のように考へられそして光輝ある有意義な一生を送るためには家庭を捨てなければならないように一

部の婦人は信じてゐました。ですから、たゞでさへ家庭婦人として不完全な母として無資格な婦人が多いのに、今日までの婦人論の普及はいやが上にも婦人を不完全な家庭婦人、無資格な母として止みません。

そして、これは皆女子教育の根本觀念が、女子を全然男子に隷屬せしめようとするのでなくても、少なくとも、現在の男子本位の家族制度に適應せしめようとしてゐることに若い女性はあきたりない上に婦人論の影響を受けるようになつたからです。

要するに、國家に對する家庭の使命、女子の任務と云ふことを十二分に考慮して教育家は女子教育にのぞまれたい。――この點を考慮されるならば女子教育が男子教育に後れてゐることの如何に不合理であるかゞ明らかになります。――昔風の女大學式の盲從を强ゆるのではなく『美しい魂、即ち、美しい性質は義務と慾望の合致から成り、そこに美しい魂の表現なる美德が生れる』と云ふ言葉を玩味されて、この美しい魂を造る方針をとつて頂きたい。

それから目下の學校騷動に對してはあくまでも文教上の制裁力を文部大臣を中心に確立したい。如何なる理由があろうとも教育者を被教育者がなぐるの排斥するのと云ふことは大なる人倫の紊亂です。教育者が必ずしも完全なる人格者だとは言へませんが、併し、その場合には其の教育者を排斥する方法は外にある筈です。

山田わか女史著
昭和婦人讀本
處女篇 家庭篇 各 定價壹圓 送料拾錢
發行所 東京市牛込區赤城元町 株式會社 文教書院 電話牛込三一七九番 振替東京四四三五三番

文明人の生活とは

一

今の世中で最もキザであり不愉快であるものは所謂文化と云ふ言葉が亂用されてあることです。文化住宅と云へば一寸した風にも吹きとばされそうな安普請の、いやにケバ〱しい色のペンキ塗りの家であり、文化お召と云へばまがいものゝ織物であり、文化人と云へば所謂モダンボーイやモダンガールであるようです。

一國の生命であり力である青年男女の凡てが所謂モダン男女のようであつたならば其の國の運命はどうなるでせう。

彼等はこの人生をあまりに安價に考へて、文明のあらゆる利器を自分等の思ふまゝに享樂することが自分等の特權でゞもあるかのように信じてゐるような態度をとつてゐますが、併し、この文化なるものはどうして生れたか、又、どうして維持されてあるかと云ふようなことに付ては全く無關心であるようです。

文明國としての秩序と保安を保つには如何に多くの人々が心身を勞してゐるか？

文明人としての幸福を享有するには相互依賴が如何に複雜であるか？

文明人としての秩序、仕事、及び、幸福は文明人の凡てが各自の義務を如何に堅固に守らねばならぬか、と云ふようなことに付いて彼等は一寸でも考へたことがあるでせうか？

戰時に於て軍人は彼等の義務を守らなければ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なりません。それが困難だとか危險だとか云つてゐる餘裕を持ちません。で、軍人は彼等の義務を捨てるよりもむしろ死を選みます。それでこそ軍人としての面目が立ちます。平時に於て文明人が各自の義務に忠實で無ければならないと云ふことは戰時に於ける軍人と殆ど同じように必要です。

私は、汽車に乘る度毎に、機關手が心に一瞬間のゆるみもなく自分の義務を守つてゐる態度にいつも崇高の氣持ちを感じてゐます。もし、多くの乘客の生命を託されてゐるあの機關手が自分の責任を忘れて無茶苦茶な運轉をしたなら其の結果はどうなるでせう？

この頃流行の『モダン』『自由意志』『獨立』などと云ふ言葉程空虛な言葉はありません。それ等の言葉は、皆、虛であり破壞的です。

なぜなら、文明が偉大であればある程、それは人類愛にゆたかな、そして、義務のために身を捧げることを喜びとするやうな偉大な人物の働きの結果であるのです。

蝶々のような輕薄な所謂モダン男女の考へる處とは反對に、この文明生活に於て最大重要なる言葉はやはり『義務』であります。ですから責任觀念のない、所謂自由を振り廻してゐる。そして、文化人乃至文明人をもつて自ら任じてゐるモダン男女は、無數の人々の血と汗の結晶なる文明の大潮流の上をフラ〳〵飛んでゐる寄生蟲であります。

二

今日の文明は、人類の頭腦の働きによつて、數千、數萬、否、數億の發明の堆積であることと何千年の歲月の經過と共に、一ツの發明に又一ツの發明が付け加へられ、蓄積されて來たこと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

エディソンでもマルコニーでも彼等單獨では電燈にしろ無線電信にしろ發明できるものでないと云ふことは前號に書いて置きました。

たとへば、鍬のやうなものでも、最初人間は土を掘るのに動物と同じように手でひッかいて掘つてゐました。そのうちに、手ごろの木片を見つけて手の延長としました。それから、土を掘るのに最も都合のよい木の鍬を發明し、その次には金屬を用ひるようになりました。

物を動かす力を例にとつて見ませう。最初人間は自分の筋肉の力にのみ頼つてゐました。その次には動物の筋肉の力を利用するようになりそれから、風や水を利用することを考へ、約百年位ひ前から蒸氣を、そしてこの頃では電氣を利用することを發明しました。最近になつてから地球の内部の熱を利用しようとして頻りに努力してゐる人があると云ふことを聞きました。

その外、大海洋の水だの、太陽の熱だの、又はラヂュームだのと、發明を加へさへすれば利用出來る無限の力か此の宇宙には存在してゐます。が、人間の考へる力がそれだけ、先づ、進まなければなりません。

發明と云ふ言葉は、單に、道具や道具の延長の器械などにばかり摘用される言葉ではなく、人間生活のあらゆる方面に摘用される。たとへば、國防にそなへる軍隊、或る種類の宗教、商事會社、教育制度など、皆發明の結果だと云ふことができ、この意味で發明と云ふ言葉を使用するなら、實に、私共に便利な器械ばかりでなく、私共の習慣も理想も諸制度も皆發明の結果で、科學も、藝術も、産業も、政府も、道德も宗教も、その外凡てのものが發明の堆積だと云ふことも前號に書いて置きました。それは、丁度、珊瑚島が何百年、何千年の歳月を經過して

造り上げられたのと同じです。

先代からの遺産である現代の此の文明に、又私共は幾分かを附け加へて次代へ此の遺産を讓らねばなりません。それが私共現代人の共同事業であり、責任であり、同時に、大きな誇りでなければなりません。

三

幼兒は競技の規則に關する觀念を持つてゐません。從つて、競技に加はることができません。けれども、彼等の年が進んで、規則を會得するようになれば彼等はベースボールにでもバスケツトボールにでも加はることができます。で、彼等は規則を知らなければ競技は出來ないと云ふことを悟ります。その他、室內競技たとへばかるたのようなものでも一定の規則に從ふと云ふことが無ければ其れは不可能です。

そして、道德とは私共が他人と一緒に生活する、つまり、社會生活と云ふ競技の規則に過ぎないのです。盜むな、殺すな、姦通するな、と云ふことは社會生活と云ふ競技の規則であつてもし、人が此の規則を守らなければ社會生活と云ふ競技は破壞です。そして、人々が幸福、健康、及び、繁榮を樂しむことの代りに貧乏と不安と病氣と死があるでせう。羅馬人が規則を守らなくなつた時に、羅馬帝國は流血と混亂の巷となりツイに倒壞したと云ふことを歷史は記錄してゐます。

ベースボールのような競技の規則は、不圖發明されたものではなく、成長したものだと云はれてゐます。始めは極く單純であつたものが次第々々に複雜となり改良を加へられて今日のかたちになつたのです。長い間の幾人かの經驗によつて都合の惡い處は除去され、都合善き處が

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

付け加へられて今日に達したのです。勿論、まだ〳〵改良の餘地があることも認められてゐます。

社會生活と云ふ競技の規則に付てもそれと同じことが云はれるのです。まだ〳〵不完全な處があり、大いに改良を加へねばならない處があるのは勿論ですが、とにかく、これも、亦、長い間の人類の經驗から成長したものであると云ふことは確かです。そして、それは私共自身のための道徳律であつて、強い人の乃至年長者の出來心によつて私共に無理強いにされてゐるものではありません。

長い間かゝつて成長した道徳律と云ふ遺産を私共は先代から受け繼いだのです。

この遺産を使用して私共は社會全體の健康と安全と幸福と繁榮を計る共同作業に從事してゐるわけでありますが併し所謂モダン男女は此の遺産を認めず、共同作業に從事することを抗み刹那々々の氣分によつて動きます。

傳統の一切を彼等は自慢そうに捨てゝゐるのでありますが、併し、實は彼等は其の傳統なるものを理解する頭腦の力を缺いてゐるのです。乃至は、文化それ自身に何物をも貢獻せずに、たゞ、人の造つた文化を享有することをのみ考へてゐる橫着者です。

道徳の用は自己保存であると同時に相互補助です。故に、それは人生に絶對必要のものです。道徳が無かつたならば、私共は社會生活を營むことは出來ません。

不道徳な人は彼自身の並びに社會の破壞者であることを私共は知らねばなりません。

四

私共の幸福と進步に必要な發明と云ふものは

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

困難に遭遇した場合ひに、それを避ける即ち消極的態度に出る代りに、その困難を乘り越へる或ひは打破する、即ち積極的態度に出た結果です。

　けれども、今日の我が國に於ては個人的にしろ國民的にしろ困難に遭遇すればすぐに消極的態度になつてしまう。失業者がある、それ人口過多の結果だ、食料が不足らしい、それ人口が過剩であるからだ、産兒を制限しろ、と云ふ調子であつて、如何にして仕事を得るか？　如何にして食料を增加すべきかを考へません。

　一體、勞働は勞働をして貰ふ人にとつては利益がある筈です。勞働をして貰はないのは損なのです。けれども、その勞働をして貰いたくないと云ふのは、勞働する人が『勞働をしてやらう』と云ふ心組みでなく『金を呉れ』と云ふ態度であるので、仕事に匹敵しない高い勞銀を支拂ふことが苦痛になるので出來るだけ人を雇はないことを考へるのです。ですから、仕事が無いのではなく、仕事をしないことが失業の大きな原因の一ッです。

　一方に於ては、食物の不足が稱へられてゐるにも拘らず、他の一方に於ては、豐富に米を實らせ得る美田が荒地になろうとしてゐる。何と云ふ矛盾を敢へてしてゐるのでせう。

　これは國民の無氣力、不誠實、勞働回避の結果でなくて何でせう。そして、これは亡國の兆であります。

　この忌むべき亡國の兆を消散せしむるものは誰でせう。

　それは、文明の大潮流の上をフラ〳〵飛んでゐる蚊蜻蛉のような所謂モダン男女ではなく、健實な思想の持主なる靑年男女、開闢以來の人類が蓄積して置いた知力的精神的遺産を尊敬し

受け繼いでゐる、そして、文明の大潮流の中に飛び込んで文明人としての責任を充分に果してゐる青年男女の方達であります。

何千年の間に人類が堆積して置いた遺産を受け繼ぎ、それに幾分を付け加へて次代へ又讓ろうとする、文明の大潮流そのものを形成してゐる青年男女の生活は何と云ふ素晴らしい生活、何と云ふ光輝ある生活であるでせう。

無藥療術の勃興

山田斎吉氏の病氣に付て、書けば皆様に御心配をおかけすることになるとは考へながら、併し、本誌の編輯人である以上、御知らせしないわけにもまいりませんので、前號に一寸書きました處、果して、多方面から厚き御同情を御よせ下さいましてまことに恐縮に存じて居ります。

そして、その後の經過を御報告申上げなければすまないことだと存じますので、今、又、少しく書かせて頂きます。

前號に書いて置きました「體質匡正法」の渡邊祐五郎氏は「無痛安産法」の新發見者でゐらつしやいます。この方に、一週二度乃至三度治療して頂いてゐるうちに、はつきり明けなかつた目がパッチリと開き、意識が益々明瞭になり、言語も徐々と了解し易くなり、醫者を驚かすばかりでありました。

この治療の功能はもはや疑ふ餘地はありません。が唯、一ッ困つたことはこの治療法は非常に患者を痛がらせることです。

勿論、私の專斷で病人の意向などはたづねもせず——考へさせたり判斷させたりすることは病人の頭のた

めによくないと思つたものですから――施して頂いてゐたのですが、病人もだまつて治療を受けてゐたのですが、痲痺してゐた神經が徐々に生きかへつて來るに從つて、病人の苦痛は益々烈しくなつてまゐりました。目の色を變へ、油汗を流して不自由な體でもだへ苦しむ有樣は目もあてられません。私は病人の比較的自由のきく右の手を私の兩手でかたく握つてゐて

「いのちと取りかへつこですから我慢して下さい！」

と叫びつゞけてゐまし　。

こう云ふ狀態が四週間續きました。意識はます〱明瞭になつてまいりますが、併し、左半身は依然と少しも動きません。そこへ、友人が他彊術を施す婦人――御本人の御希望で御姓名はわざと此處には書きません。理由は、もし御姓名が廣く世間に知られて治療の要求があつても、一人の體では其れに應じきれず却つて御氣の毒なことになるからと仰有います。――を紹介してまいりました。これは自彊術と同じ方法であるが自分では出來ないから他から施す、即ち、他彊術であると云ふことです。

この治療は主として兩手で腹部を揉みます。即ち胃腸の位置をとゝのへ、働きを活潑にし、營養を充分に吸收させ、かくして、全身の機關の働きをたすけ、凡ての疾患を驅除すると云ふ方法です。

不思議なものでして、この婦人に腹部を揉んで頂くこと二回で、――失禮なお話ですが――それまでは灌腸をしなければ斷じて無かつた通じがやす〱と自然にありました。便通の困難を訴へる度毎に醫師も渡邊氏も「それはこの病氣の特徴で、腸も半分痲痺してゐるのだから止むを得ない」と云つて居られたのが自然にあるやうになつたのです。こうなりますと、氣分が輕くなると同時に、左の手足が少しも動かないとは云へ、やはり大變輕くなつてやがては動き出すような氣持ちになつた。渡邊氏の治療はもう嫌やだと云ひ出しました。止むを得ず暫く中止と云ふことに致しました。

○

發病以來三十五日目の晩でした。私共の亞米利加時代からの友人坂本龍樹氏が、主人の病氣のことを外から聞いて驚いたと云つて訪れてまいりました。『發病し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た時知らして呉れゝば今頃はもう歩き出せるように僕がして上げてゐるのに」と私が通知しなかつたことに付て大不服でした。

この方は佛法を深く研究された結果、

「我々は宇宙に因りて造られたる小法體です。宇宙は我々を造つた大法體です。此の大法體の保護を受けなければ我々は一日たりとも生存する事は出來ないのです。宇宙間の森羅萬象は皆此の大法體に因りて造られ、亦保護を受けて生存してゐるのです。……併し宇宙の保護に因りて呼吸をさせて貰ふて居る事に氣付かずして己の獨立で生存し亦己の獨力で呼吸して生長したと思ふて居る。」

と云ひ、そして、あらゆる病氣の原因が此處に存すると云ふ主張の下に「坂本式自然法修養會」を創立し、「阿吽(アーウン)」の呼吸法の普及に努めて居られることはかれてから承知してゐましたが、併し、同氏が積極的に手を下して難病を治すと云ふことは知らなかつたものですから、私は同氏がどう云ふ方法で治療なさるか、又如何にして其の治療法を發見されたかをたづねました。

佛法のうちに「自他一如」即ち「他人の生命をもつて自巳の生命をつぐ。又、自己の生命をもつて他人の生命をつぐ」とあるが、その實行方法が今迄發見されずにゐた。處が、私は、大宇宙の法則に順應した阿吽(アーウン)に精心してゐるうちに自分のからだから電氣が放射されるのを感じ、あゝこれだな！　と翻然悟つた。健康體のしかも强度な自分のエネルギーを私の指先きを通して山田君の病體に注入してぢきに歩るけるようにして上げる」と云はれ以來一週に三回位ひづゝ、其の治療法を施して下さいます。

○

他療術を施して下さいます御婦人が毎日々々腹部を揉んで胃腸の働きを活潑にして下さいます。そして、坂本氏が御自分のエネルギーを病人に注入して痲痺した神經に活力を與へて下さいます。

全く活動の止んだ、だらりと投げ出されてある、まるで一個の物塊のような感じの手と足が少しづゝ〱動いて參りました。始めは親指と人さし指が一生懸命見てゐなければ分らない程度に、ピク〱と動きまし

た。次には五本の指が、その次には腕のつけ根、次には手首、それから肘と云ふ順序で。足も、もう少しで膝を立て得る處まで進んで來て居ります。

左のその手足はまだ使ふと云ふ處まで進んでゐないとは云へ、併し、體全體がシツカリしてまいりましたので今では一人で御飯をいただくことができます。食卓を病床に引きよせて、自分で箸を持ちましたのは發病以來實に五十日目でありました。

○

他醫術の御婦人は「腦溢血にかゝる時には必ず胃腸に故障がある。胃腸さへ健全であれば斷じてこの病氣は起らない。又、起つても、腦溢血ばかりでなく如何なる病氣でも胃腸の働きを活潑にして營養を充分吸收させることによつて必ず健康體にすることができる」と云ふ確信を持つてゐらつしやいます。

坂本氏の御說は「病氣になると云ふのはエネルギーの不足と不平均と云ふことだ。だから、他からエネルギーを補足してやりさへすればどんな病氣でも治る。癌腫などは不治とされてゐるが、併し、人體電氣を患部に注ぎさへすれば、自然に溶けて消滅してしまう」と云ふのです。

○

最初お世話になり　した渡邊氏の「體質匡正法」は一名無藥療術とも申のですが、他醫術も、又、坂本氏の自然法も皆無藥療術であります。

醫學は可なり進んでゐるにも拘らず、治療術が非常に後れてゐる今日凡ての病氣に對する治療法には一大革命が起らればならぬ時が近づいたと云ふように私は感じて居ります。又、腦溢血に對する普通の醫師の見方も大いに變らればならぬと云ふことも絶對に必要だと思ひます。

全女性に對する誹謗言

男性記者が女性を取扱つた記事のうちには隨分不愉快なものが少くないが、併し、「女性」八月號の田端玩絆と云ふ署名の「吉岡彌生女史と自由戀愛」は近頃での其の冠たるものであるでせう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

私共は至誠病院に吉岡女史をおたづれする時、あの女人國の大きな働きを見て、女性の力の偉大さを感じ、吉岡女史に對する感謝の念を禁じることができないでゐる者でありますから、田端記者の記事に對し一言無きを得ません。

『息ぬき自動車』の小みだしの下に女史が新派俳優某と相乘りでよく自動車を飛ばしてゐたようなことをほのめかしたり學校の解剖室で男の屍體を女史が翫弄したようなことを云つて見たり、讀むに耐へられないこの文章は同記者自身の淺薄な頭と野卑な性質をさらけ出してゐるだけで、少しも吉岡女史を害するものではなく、又、女史自身も『相手とするも大人げない』と仰有つて默視されるかも知れませんが、併し、女性の精神の偉力を見ることが出來ず、劣情にのみ支配される自分を標準に凡ての女性を押しはかることは不都合此の上もないことです。そして、これは、同記者が女性なるものを常に侮辱してゐる心の態度の現れの一端です。

日本でいくつと云ふ大會社中山太陽堂の廣告雜誌、しかも婦人の向上に資すると云ふ目的を持つた雜誌『女性』が、社會の表面に活動する公人を誹謗したかくの如き陋劣な記事を發表したことは其の編輯者の良心を疑はずには居られません。正氣であるかどうかさへ疑ひたくなります。性に關する事柄を高言し婦人を當惑せしむる野卑な男と共にこう云ふ記者を嚴罰する法律制定が急務です。

本誌臨時定價表

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

▲誌代及郵稅は前金の事▲御送金の際は振替貯金東京五三六八八八番に御拂込みのこと▲郵券代用は五厘切手にて一割增▲廣告は御照會次第御相談いたします

昭和二年七月廿三日印刷納本
昭和二年八月　一　日發　　行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一九八
印　刷　人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八八番